

平成 22 年 3 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19592587
研究課題名（和文）：精神病初発患者の医療への繋ぎアプローチの開発—学校現場および家族への方略—
研究課題名（英文）：Developing the early intervention program to outreach adolescents at the onset of mental disorders: Making an approach to the school and family
研究代表者
甘佐 京子（AMASA KYOKO）
神戸大学・保健学研究科・准教授
研究者番号：70331650

研究代表者の専門分野：精神看護学
科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学
キーワード：学校保健、精神疾患、思春期、問題行動、早期介入

1. 研究計画の概要

本研究では、以下の三点の目標を達成するために、段階的に調査・研究を行うものである。

- (1) 医療への繋ぎの各起点となる、家庭・学校・医療の現状を明らかにする。

2007～2009 年度

作業①, ②：病院関係者・家族への調査

作業③：養護教諭・中学生への調査

- (2) 家庭および学校現場における早期受診に向けての方策を検討する(家庭と医療の繋ぎ)

2008～2009 年度

作業④：推進国である諸外国から知見を得る

作業⑤：家族会に向けた調査

- (3) 中学生を対象にした精神病に関する啓発教育プログラムの開発(学校・生徒と医療・家庭との繋ぎ)および評価。

2010 年度

作業⑥：教育プログラムの作成

作業⑦：教育プログラムの実施と評価、学校・家庭・医療との連携方法の考案

2. 研究の進捗状況

学校現場およびプログラムの対象となる、中学生の認識の現状を知るために、中学校養護教諭からの聞き取り調査と、A市内の中学生を対象に精神疾患に対する認識についてアンケート調査を実施しその現状をあきらかにした。又、精神疾患の発病時に家庭でどのような現象が生じたか(作業①)については、現在アンケートを作成中であり、今後家族会を通じて、ご家族に依頼する予定である。

早期介入については、オーストラリアやイギリスが推進国として大きな効果を示しており、2009 年にイギリスの Rethink（全ての重度精神障害者のリカバリー（回復）を助けるために共に働く、英国最大のボランティア団体であり、国内最大の精神保健サービスを提供する民間事業所）を訪問し、資料等を収集した(作業④)。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

家族・医療の現状の調査について内容および依頼先の検討に時間を要し、やや遅れを認めるが、教育プログラムの対象である学校現場の現状は明らかになっており、前述の調査と平行しながら教育プログラムの作成を進めていく。

4. 今後の研究の推進方策

養護教諭および中学生を対象とした調査から、学校現場では精神疾患の発病を視野に入れた関わりが重要とされながらも、充分に対応できていないこと、また当事者となる生徒たちは精神疾患に対して正しい知識はほとんど持っていないことが明らかとなった。今後は学校現場に対する介入(教育プログラムの作成)を重点的に推進しながら、家族・医療現場の意見を取り入れながら、学校・家庭・医療において精神疾患の早期介入に向け、どのような連携や取り組みが必要なのかを検討していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

① 甘佐京子, 比嘉勇人, 長江美代子, 牧野耕次,

田中知佳, 本行弘: 中学生を対象とした「こころの病気」に対する意識調査, 人間看護学研究(7), p73~79, 2009, 査読有.

〔学会発表〕(計2件)

① 甘佐京子, 長江美代子, 土田幸子: 精神的疾患が疑われる生徒への対応の現状~中学校養護教諭の語りからみえてくる課題~, 日本看護研究学会第23回近畿・北陸地方会学術集会, 2010年3月14日, 京都.

② 甘佐京子, 比嘉勇人, 牧野耕治: 「こころの病気」に対する中学生の認識, 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008年12月13日, 福岡.